

1

令和7年度の「聞き書き甲子園」がスタートしました！

第24回聞き書き甲子園に参加する高校生93名が決定し、令和7年度の「聞き書き甲子園」がスタートしました。高校生は、「聞き書き」のコツ等を研修で学んだ後、名人に取材を行い、話の内容を作品にまとめます。優秀な作品には、令和8年3月の「第24回聞き書き甲子園フォーラム」にて、農林水産大臣賞、林野庁長官賞等が贈られます。

聞き書き甲子園とは

日本人は古くから、森や海、川の自然を守り、育て、その恵みを得ながら生き続けてきました。そこには人々の優れた知恵や技があり、同時に、その営みが自然の豊かさを育んできました。しかし、農山漁村における過疎化が進み、暮らしに必要なものを森や海、川から得るための知恵や技が失われつつあります。

「聞き書き甲子園」は、全国から選ばれた高校生が、日本各地の森・川・海の「名人」を訪ね、一対一でその知恵や技、生き方を「聞き書き」するプロジェクトです。平

成14年から始まり、参加した高校生は2,100人を超えました。この取組は、「自然と向き合う仕事の大切さ」や「地域ごとに特色ある生活文化の豊かさ」を社会に広めるとともに、持続可能な未来を担う次世代を育成することを目的としています。

聞き書きとは

「聞き書き」とは、話し手の言葉を丁寧に



聞き書き甲子園の1年

2025年に参加する高校生の皆さんは、全国15地域の森・川・海の名人を訪ねます。

取材先は全国に広がる15の地域



聞き、その言葉を一字一句全て書き起こし、話し手の口調をいかして文章にまとめ手法です。話し手の人生や価値観、経験を深く掘り下げ、文章化することで、その人の生き方や地域の文化などが浮かび上がります。名人の語り口を文章にまとめていく過程で、高校生は名人の話した言葉を何度も繰り返し反芻することで、はじめは「他人ごと」だった名人の想いや価値観が、共感や敬意とともに「自分ごと」に変わっていきます。

この取組は、令和8年度で25回目を迎えます。これからも、取組を通じて高校生に名人の生きる知恵や技に触れる機会を与え、山村地域に若者の元気を届けていきます。

協力市町村との関わりで期待されること

「聞き書き甲子園」の実施にあたっては、協力市町村(地域)を公募し、各地域から名人を推薦していただき開催しています。市町村においては、この取組を通じて、長年にわたり育まれてきた「なりわい」や「生活文化」を再認識し、地域の未来を考える機会となることが期待されます。



第23回「聞き書き甲子園」農林水産大臣賞受賞作品の紹介

第23回「聞き書き甲子園」の成果発表の場として、令和7年3月24日に「第23回聞き書き甲子園フォーラム」を開催しました。フォーラムでは、農林水産大臣賞等の受賞作品の紹介や、高校生と森・川・海の名人が、作家の塩野米松氏及びエッセイストの阿川佐和子氏を聞き手に迎え、聞き書きの体験談やエピソードに関する対談を行いました。フォーラムの様子はYouTubeでご覧いただけます。



第23回聞き書き甲子園フォーラム①
https://www.youtube.com/watch?v=NXCog_5LGas&t=48s



第23回聞き書き甲子園フォーラム②
<https://www.youtube.com/watch?v=XHs5IRBHDC8>



第23回聞き書き甲子園 農林水産大臣賞

「木造船に想いを乗せて」

(名人) **番匠 光昭**さん
(富山県氷見市/船大工の名人)

(高校生) **小林 華音**さん
(東京都大妻中野高等学校2年)



フォーラムでの対談で、和船づくりに使うのこぎりについて説明する船大工 番匠さん(写真左)と「聞き書き」した高校生 小林さん(写真中央)

和船の船大工 番匠さんの話を「聞き書き」した高校生 小林さんの感想

取材のなかで、番匠さんが笑顔で語った「いずれはなくなる職業だから」という言葉の裏には、伝統が失われていく寂しさと、自分が後世に残すという決意が感じられました。また、特に印象的だったのは、「自然が失われつつあるんや」という言葉でした。環境破壊は伝統技術をも奪ってしまうことに気づかされ、伝統技術やその名人を守るために、自然を大切にしていかななくてはならないと感じました。

聞き書き甲子園をもっと知るには？

「聞き書き甲子園」の詳しい情報は、「聞き書き甲子園」ウェブサイト (<https://www.kikigaki.net/>) をご覧ください。



聞き書き電子図書館

「聞き書き甲子園」に参加した高校生の作品と、名人のプロフィールを検索し、閲覧することができます。作品全文を閲覧するには、会員登録が必要です。
<https://lib.ruralnet.or.jp/mori/>

